

## 「奥田四郎博士が見たマドカスピオ」の正体を求めて

阿部 博和

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1 岩手医科大学教養教育センター生物学科  
habe@iwate-med.ac.jp

マドカスピオ *Spio filicornis* (Müller, 1776) はスピオ科に属する小型の海産多毛類（ミミズと同じ環形動物の仲間）であり、日本各地の浅海域に広く生息する普通種として知られている。本種は、厚岸と室蘭から採集された標本をもとに、1937年に奥田四郎博士によって初めて国内から報告された。当時、*S. filicornis* は世界各地に広く分布する汎世界種とされていたが、その後、真の *S. filicornis* は北極圏にのみ生息することが示された。このことから、日本に *S. filicornis* が生息している可能性は低いと考えられる。筆者のこれまでの研究により、国内でマドカスピオと呼ばれている多毛類には、少なくとも *Spio arndti* と *Spio aff. filicornis* (aff. は～に類似の意) の2種が含まれていることが判明している。本研究では、本種を国内から初めて記録した奥田四郎博士が過ぎし日に厚岸と室蘭で見たマドカスピオの正体を明らかにし、本種に充てる学名と和名について再検討を行うことで分類学的混乱の解決を図ることを目的とした。

2019年9月および10月に厚岸湾と厚岸湖の9地点においてスピオ科多毛類の調査を行った結果、厚岸町から *S. arndti*, キタスピオ, ホムラスピオ, *Spio* sp., *Microspio* sp., ヒゲスピオ種群の一種, ドロオニスピオ, *Scolelepis* sp. 1 の5属8種のスピオ科多毛類が採集された。また、本調査の補足的な調査として、室蘭の電信浜, 別海の風連湖, および斜里の前浜においても同様の調査を行った結果、アミメオニスピオ, トガリスピオ, ヤマガチマクスピオ, *Scolelepis* sp. 2, *Spiophanes* sp. を加えた合計6属13種のスピオ科多毛類が北海道海域から採集された。このうち、*Spio* sp., *Microspio* sp., *Scolelepis* sp. 1, *Scolelepis* sp. 2, *Spiophanes* sp. の5種については国内未記録種の可能性があり、*S. arndti* とホムラスピオについては国内2例目の記録となった。

本研究では、厚岸や室蘭をはじめとした北海道海域において広く調査を行ったものの、奥田四郎博士によって厚岸と室蘭から記録された *S. filicornis* は確認することができなかった。その一方で、厚岸, 室蘭および風連湖において、*S. filicornis* と形態がよく似る *S. arndti* が記録されたため、奥田四郎博士がかつて厚岸と室蘭で見たマドカスピオの正体は、*S. filicornis* ではなく *S. arndti* であった可能性が高いだろうと考えられる。つまり、和名「マドカスピオ」に充てる学名としては *S. arndti* が適切であるということになる。しかし、本州海域に生息している *Spio aff. filicornis* も多くの報告で「マドカスピオ」の和名が充てられているため、将来の混乱をさけるためには、「～マドカスピオ」のように従来和名に異なる接頭辞をつけて2種を区別するという方法が有効であろうと思われる。2種の新和名については稿を改めて提唱する予定である。